

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年1月15日

協議会名: ニセコ町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
ニセコバス株式会社	運行系統名:ニセコ町全域 町内全域を運行区域とするデ マンド型運行 ・運賃1乗降200円 ・ドア・ツー・ドアサービスでの 運行 ・午前8時から午後7時まで毎日 運行(平日のみ、午前7時台に 一部地域からの路線を運行) ・車両及び台数 ワンボックスタ イプ(10人乗り) 2台	町民対象としたまちづくり懇談 会でのデマンドバスの説明、町 ホームページによる周知、事業 者バス時刻表、デマンドバスパ ンフレットへ掲載、町内コミュニ ティFM放送での運行情報提供 等による広報活動を実施した。	A 計画どおり運行し、事業は 適切に実施されている。	A 令和5年度計画時の目標に 対する実績は、バス利用者 目標数13,800人に対して、 16,601人。月平均運賃収入 は目標174,500円／月に対 して、219,680円／月、収支 比率は、目標7.00%対し て、10.05%となっています。 事業運行期間中の令和5年 5月に新型コロナウイルス 感染症が5類へと変更とな り、その後4ヶ月間という運 行では、利用者数、月平均 運賃収入及び収支比率が 目標を上回ることではできな かったが、前年度の実績以 上の利用者数となった。	車両数は運行当初からの2台体制を維 持しているが、特に冬季間の乗車希望 に対し、所要時間の増等の影響もあり十 分応えできていない状況が続いている。  予約時において、乗り合い運行を奨励 する運用改善を引き続き進め、乗合率 及び利用者数を高める取組みを進める など適宜改善を図るとともに、ニセコ町 公共交通の最適化を推進していく。  現在、地方創生事業を活用(今年度 にて終了)し、町の交通課題と解決方法 を見出すこととしている。その一環として、 スキーバスを定時運行することで、デマ ンドバス利用にどのような影響がでるか を検証し、お断り件数や利用者の増加 への影響について改善に努めていく。  また、withコロナの時代に対応し、感染 防止対策と外出機会の確保を両立する ためにも、消毒やビニールカーテンなど により、安心して利用できるよう運行を続 けていく。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年1月15日

協議会名：	ニセコ町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【ニセコ町における地域公共交通】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ニセコ町においては、バス交通が、高齢者や学生など自動車を運転できない町民はもとより、通勤者や観光客など来町者にとっても必要不可欠な移動手段であり、地域公共交通の主役となっている。</li><li>・タクシーは、町内にある1社と近隣地域の会社がサービスを提供しており、バス交通では対応できない個別的な緊急性や融通性を必要とする町民や観光客の移動、バス停までの移動が困難な高齢者等の通院や買い物などに対応している。</li></ul> <p>【民間路線バス(ニセコバス)の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・民間路線バスは、乗降客数の減少と、それに伴う事業性の悪化といった傾向が続いており、乗車密度も低下傾向にある。</li></ul> <p>【ニセコ町における地域公共交通の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ニセコ町においては、少子高齢化が進み、移動弱者が増加している。また、観光利用での交通需要も高まりつつある。そのような移動弱者が利用できる交通手段の確保が課題となっている。</li><li>・バス交通全般の乗降客数の減少や財政負担の増加に対応するため、これまでも毎年度運行計画を見直してきたが、民間路線バスの運行は、深刻な人員不足などから、サービス水準の維持・確保と事業の継続の観点からみると極めて厳しい状況にある。また、タクシーに関しても、需要の季節変動が大きく、安定的な人員確保やその経営状況は厳しい状況にある。</li><li>・観光シーズンに観光客が一時的に増加し、公共交通の移動手段の確保が難しくなるなどのオーバーツーリズムの社会課題を抱えている。</li></ul> <p>以上のことから、ニセコ町の実態に即した長期的で持続可能な地域公共交通の確保維持にむけて、利用者・交通事業者・行政関係者の総意のもと、それぞれの立場で役割を担いながら、バス交通運行形態の抜本的な見直しやタクシー事業の多角化・高度化、地域公共交通全体での環境配慮などが急務の課題である。</p> <p>そのため、本地域公共交通確保維持事業により、ニセコ町デマンドバスの運行を行い、住民の生活交通の手段の確保を図る。なお、本系統は、JRニセコ駅及びJR昆布駅での地域間交通ネットワークと接続するフィーダー系統であり、学生の通学手段や高齢者の通院・買い物、来町者などの交通手段として大きな役割を果たすものである。</p>

# ニセコ町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

地域の交通について、町の実態に即した長期的で持続可能な確保維持にむけ、利用者・交通事業者・行政等関係者の総意のもと、それぞれの立場で役割を担いながら、バス交通運行形態の抜本的な見直しやタクシー事業の多角化・高度化を検討及び環境配慮などが急務の課題となっている。

本事業により、ニセコ町デマンドバス運行実施し、移動弱者が増加している住民の生活交通の手段の確保を図る。なお、JRニセコ駅及びJR昆布駅での地域間交通ネットワークと本フィーダー系統との接続により、学生の通学手段や高齢者の通院・買い物、来町者の交通手段として大きな役割を果たすものである。

## 地域公共交通の現況

- ・JR函館本線（ニセコ駅、昆布駅）
- ・ニセコバス（株）（町内2路線）
- ・道南バス（株）（町内1路線）
- ・スクールバス（5路線）

## 生活交通確保維持改善計画の目標

- ①通勤・買物・通院などの日常生活に必要な移動における自家用車利用を地域公共交通利用へ転換させ、乗車人数を増加させる。目標13,800人
- ②町民の健康維持や地域活性化に資する施設利用やイベント参加のための移動における地域公共交通利用を促進させ、月平均運賃収入を増加させる。  
目標174,500円
- ③地域公共交通の利用により経常収支比率を改善させる。目標7.00%

## 協議会開催状況

- 令和5年4月28日 第26回協議会を開催  
（地域公共交通活性化協議会規約の改正等）  
令和5年6月21日 第27回協議会を開催  
（地域公共交通計画策定に向けた検討等）  
令和5年9月22日 第28回協議会を開催  
（営業区域外旅客運送の必要性について）  
令和6年1月15日 第29回協議会を開催  
（地域公共交通確保維持改善事業評価等）

## 令和5年度事業概要

- 運行系統名：ニセコ町全域 町内全域を運行区域とするデマンド型運行
- ・運賃1乗降200円
  - ・ドア・ツー・ドアサービスでの運行
  - ・午前8時から午後7時まで毎日運行（平日のみ、午前7時台に一部地域からの路線を運行）
  - ・車両及び台数 ワンボックスタイプ（10人乗り）2台



## 1) プロセス、創意工夫

平成24年10月から従前の町内循環バスに代わる地域公共機関として、デマンドバス(にこっとBUS)を運行している。

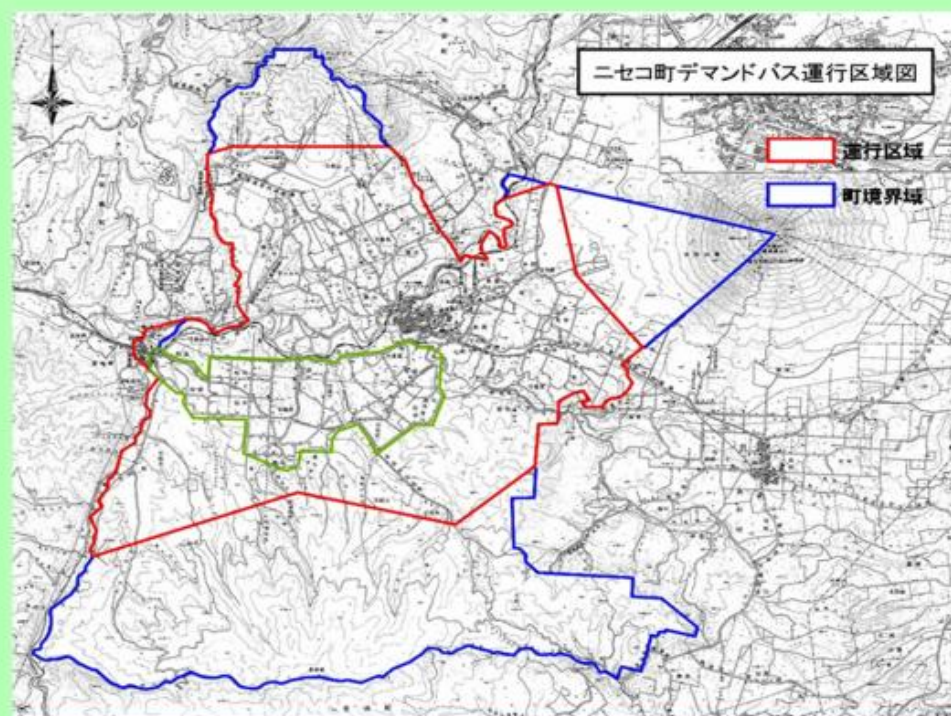
- ・予約電話が繋がらないことに対応するため、話中を改善するガイダンス案内を継続。
- ・利用需要の増や時間集中に対応するため、予約時に乗合運行が増加できるように引き続き配慮。
- ・冬期間のスキー利用などによる混雑緩和のため、市街地とスキー場を結ぶスキーバスを定時運行。
- ・コロナ禍以後はビニールの仕切りや消毒など感染防止対策を実施。

## 2) 運行系統

### 【運行系統】

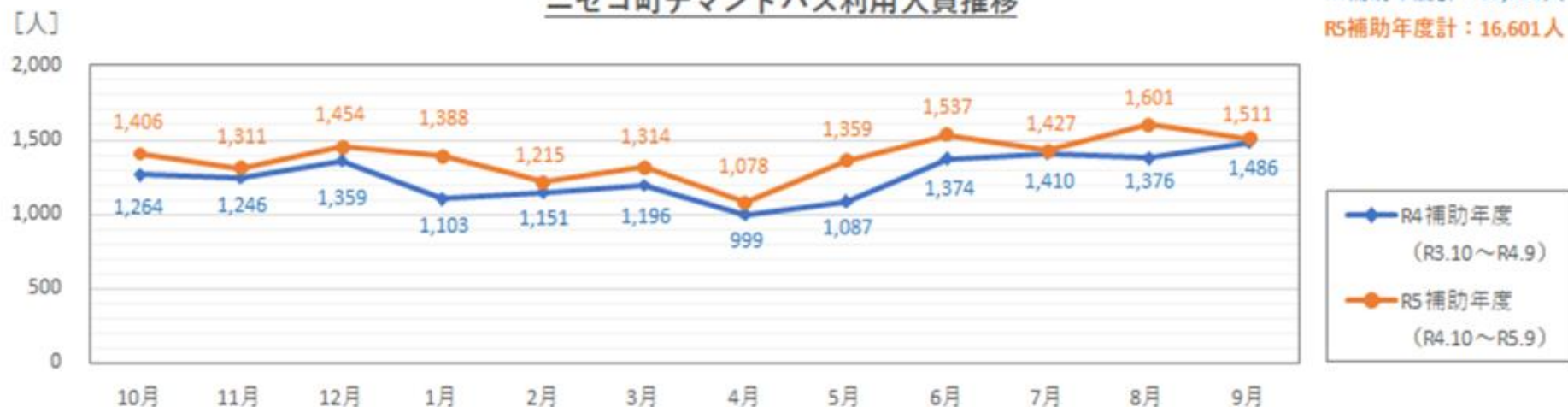
ニセコ町全域を区域としている。

※運行区域図は右図のとおり



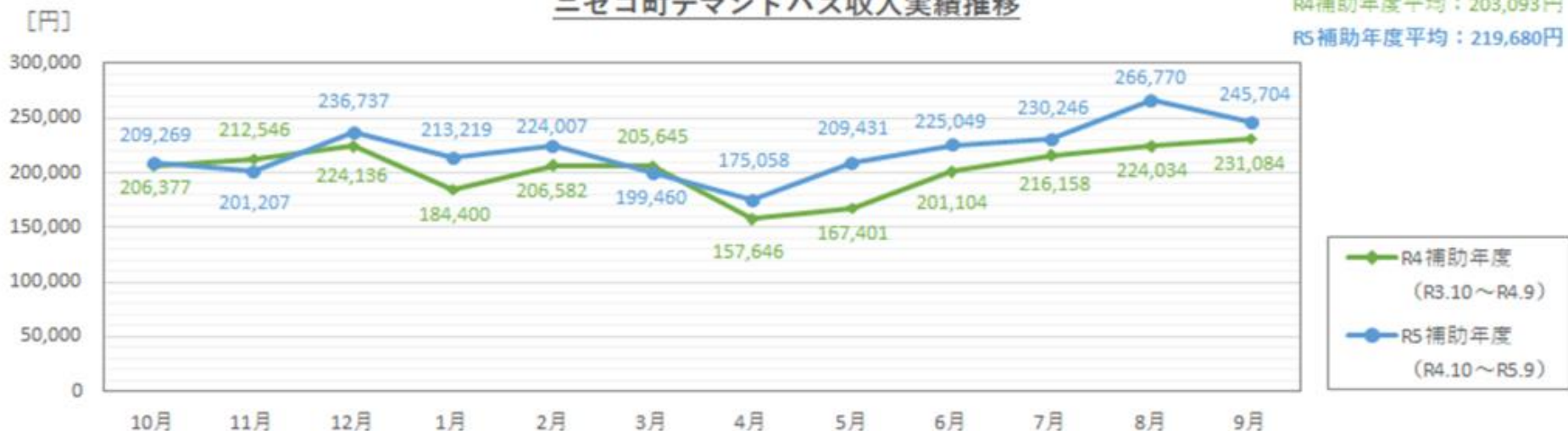
### 3) 利用実績

ニセコ町デマンドバス利用人員推移



### 4) 収入実績

ニセコ町デマンドバス収入実績推移



## 5)事業実施の適切性

計画どおり運行し、事業は適切に実施されている。

## 6)目標・効果達成状況

令和5年度バス利用者目標数13,8000人に対して、16,601人。  
月平均運賃収入は目標174,500円／月に対して、219,680円／月、収支比率は、目標7.00%に対して、10.05%となっています。

## 7)事業の今後の改善点

車両数は運行当初からの2台体制を維持しているが、特に冬季間の乗車希望に対し、所要時間の増等の影響もあり十分応えきれていない状況。

予約時において、乗り合い運行を奨励する運用改善を引き続き進め、乗合率及び利用者数を高める取組みを進めるなど適宜改善を図るとともに、ニセコ町公共交通の最適化を図る。

現在、地方創生事業を活用し、町の交通課題と解決方法を見出すこととしている。その一環として、スキーバスを定時運行することで、デマンドバス利用にどのような影響がでるかを検証し、お断り件数や利用者の増加への影響について検証運行を継続している。

## 8)地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄